


(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

平成30年7月25日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	印
		議員名	厚地弘行 
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 佐貫尚子 多宮健二 中田 哲 (無会派) 小山裕久 計7人		
視 察 先	山形県上山市及び天童市		
調査事項 (調査目的)	上山市 健康マイレージ事業 天童市 駒やかカイゼン運動 婚活サポーター事業		
日 時	30年7月4日(水)～30年7月5日(木)		
視察先対応者	上山市 副議長尾形みち子 健康増進係長尾形洋介  天童市 議長赤塚幸一郎 総務部市長公室室長補佐長澤和彦 同上(兼)政策企画係長武田芳仁 市長公室まちづくり推進係行政主査栗原美幸 議会事務局調査係係長蜂谷幸太		
添付資料	・かみのやま健康マイレージ事業 ・天童市の「駒やかカイゼン運動」について ・天童市結婚サポーターについて ・		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	: 30年7月4日(水) 午後2時45分 ~ 4時15分
視察先	: 山形県上山市
調査事項	: 「健康マイレージ」

(調査結果の概要及び所見)

### 【事業の説明】

別紙資料に基づき、事業実施の経過、参考自治体等、事業の内容、健康マイレージ事業の協力店(市の事業)、やまがた健康マイレージ事業(県事業)、事業参加者数の説明があった。

上山市の健康マイレージ事業では毎日こつこつ行う1ポイントコースと、健康イベントに参加する等の10ポイントコースがある。1ポイントコースは何をもって健康ポイントとするかは自分で決めることができる。ラジオ体操や食事の内容や歯磨きでも良いということである。30ポイント貯まれば切手を貼って応募することができる。応募者のうち年に一度の抽選が行われる。景品は1等加湿空気清浄機など市が用意している。市の予算は80万8千円。実際は切手を貼って応募する人はなく皆歩いて市の窓口を持って来ているので、これも健康に良いとの説明があった。

健康マイレージ事業の参加者は毎年増加している。事業の成果は市民への健康の意識づけである。成果を数値で表してはいない。事業を行うにあたって、ポイントカードは紙を使っており自分で記入することが市民からはわかりやすいと好評であること、また健康項目をいつ、どのくらい行うか、何を行うか全て市民に任せているところが好評であるという。

課題は実施者のアンケートでは65歳以上が90%と高く、もっと若い人にも興味を持ってほしいということである。

### 【主な質疑】

質問) 銀行との協力などはあるか。

答弁) わずかだが預金金利の上ずみを行ってくれている。

質問) ニュータウン、住宅地の人などは外出をあまりしないように思うがどうか。

答弁) 健康教室もあるので、人によってできる事をしてもらえれば良いと思う。

質問) 高齢化率は。

答弁) 37%

質問) 景品の協力店への依頼はどのようにして行うか、職員が直接依頼するのか。

答弁) 直接もあるが事業自体が有名になってきているので。当初は郵送依頼を285通だしている。

質問) そのうち協力してくれた件数は。

答弁) 12店舗

質問) 医療費削減への効果はあると考えて良いか、65歳以上者の数から見るとまだ増やせられるのではないか。

答弁) 医療費の削減は今では考えていない、効果が出るとすれば長期間かかると思う。健康への意識づけが大事と考えている。健康教室や保健師さんからも普及のPRを行ってい

る。事業に参加しなくても自分で健康行動している人もいる。

質問) ポイントについてボランティア活動は含まれるか。

答弁) それは主旨が違うように思うが、自分でポイントすれば否定するものではない。

質問) 県の事業と一元化されていると考えて良いか。温泉デイサービスについては。

答弁) 市の事業として始めたが県の主旨に沿って行っている。温泉デイもOKです。

質問) 抽選は公開とあるがどのようにされているか。

答弁) 公開を見に来る人は少ない時もあるが、多い時で200人位でまちまちである。

質問) 取り組みのなかで良かったと特に思われる点について、またコミュニティの醸成にも良いように思うがどうか。

答弁) 紙ベースでの取り組みは良いと思う。天童市ではイオンモールを歩くことでポイントがついたり、新潟の見附市ではポイントを使って寄付ができる制度もあり今後研究していきたい。

質問) 事業の効果について議会から質問ができることはないか。

答弁) 数字上での成果についての質問はないように思う。

質問) 事業実施のもともとは市長の提案か。

答弁) もともとクアトルウォーキングという健康を意識したウォーキング事業を行っており、クアトルとはドイツ語の健康であるが、市長がそれを更に事業として拡大させた。

## 【所見】

今年度秋から三田市で行うこととなっている健康マイレージ事業はポイントや景品や健康の対象となるものがまだ確定されていない。上山市での実績は数年ではあるが具体的でたいへん参考となった。三田市ではボランティアでのポイントも検討されているが上山市ではボランティアは主旨が違うように思うとの考えであった。

ポイント加算や景品の贈呈は市民にとって嬉しい事ではあるが、本来は健康づくりの視点は個人個人の課題である。しかし健康意識を助長させるための方策として景品の贈呈は過度になり過ぎない範囲で良いのではないかと思う。上山市のポイント加算は何をもって加算できるかは個人に任せている、個人の責任の範囲という考えがうかがえる。

健康に関する情報が溢れている。食事についての健康法、運動についての健康法、生活習慣についての健康法など様々で他の健康法を否定する新たな情報も少なくないなかで、市民は困惑する場合もある。健康教室などによる適正な情報の提供も必要であると思う。長続きできる自分にあった健康法を作り出すことが重要である。行政はそのきっかけとしてのマイレージ制度である。

健康マイレージ事業の参加者は増々増加しており、市民の健康への感心は普遍であると感じる。事業の成果としての医療費の削減を測ることは簡単ではないが、体重や生活の変化、病院への通院回数の減少など、その成果を推測する何かを検討していかなければならないのではと考える。

調査日時 : 30年7月5日(木) 9時30分 ~ 11時30分

視察先 : 山形県天童市

調査事項 : 「駒やかカイゼン活動事業」 「婚活サポーター事業」

(調査結果の概要及び所見)

### 【事業の説明】

まず「駒やか改善活動」について別紙資料に基づき説明を受けた。

主査、係長など公募し、若手の改善リーダー30名でスタートさせ、一つの課で一つの提案ということで始めた。選考会を行い、選ばれたものに順位をつけている。優秀賞、最優秀賞には1万円のクオカードを渡している。

提案の実績としては25年67件、26年度52件、27年度45件、28年度54件である。

成果と課題については、各人が職場を見直すよい機会になったこと。課題はマンネリ化がある、また職員の発表にたいする負担感も考えられる。提案を担当する職員が「KAIZENアイデア365」という研修を受けて来た。今後の見直し向け検討を進めているところである。

### 【主な質疑】

質問) この取り組みによって職場のリーダーでできる職員は育ったか。往々にして意見が言いにくい職場なら、仕事をよくする人に仕事が集中しないか。

答弁) 仕事は組織としての対応なので問題はないかと思う。

質問) 市民の反響はどんなものか。

答弁) 選考会で選ばれた提案の7番とか8番などのように市民の窓口で直接影響のあるものもあり好評であると思う。

質問) 9番には農産物のPRがあるが、食に対する提案はあるか。

答弁) 卓上の幟旗の提案くらいである。

質問) 提案と人事評価への影響はあるか。

答弁) 人事評価に結び付けることは難しいように思う。1万円のクオカードくらいではモチベーションにつながらないかもしれない。

質問) 提案に関する職員の負担感はどうか。

答弁) 負担感はあると思う、なのでこの度の見直しも理由の一つである。職場での提案が出し切った感じも聞こえるので。

質問) 良い制度なので続けてほしいが。

答弁) マンネリ化を感じるので見直しを図っているところである。

質問) 提案内容はそれぞれの課の中で納まるようなものなのか。

答弁) 他の部署の提案をしても評価につながらないこともあり、このへんも見直しの要因と考える。

【所見】提案されたものの中には一坪和室やミルクスペースの設置など、市民に喜ばれるものが多くあるように思う。市民サービスの向上と共に提案することは普段の仕事のなかで職員が問題意識をもつことになるし、モチベーションの向上にもつながると思う。三田市の提案制度よりは遙かに実績のあるものと思うが、25年から実施し4年目で提案は出し切った感があるとの説明があったが、新しいアイデアというものに際限はないと思うので、その事については残念に思う。

三田市では昨年提案制度を休止させ検討の期間とし本年より新たなしくみでスタートしていると聞いているが、活発に提案がされているようには聞かれない。天童市の制度と比べればもっと身近な事についての提案をするべきではないかと思う。細かいことでも良いから、小さな提案の積み重ねではないだろうか。

また天童市は将棋の駒の生産が多く、将棋のまちとして力を入れている。「駒やか改善活動」もその名にちなんだものである。天童市は「ふるさと納税」の制度で年間30億円もの寄付金が集まるとの話があった。三田市の10倍以上の金額である。それには天童市の物産だけではなく、寄付をいただいた方々に将棋の駒にその方の名前を彫り込んで送っているとのことである。自分の名前入りの駒は唯一無二のものなので、魅力的なものとなっていると思う。こうした細かいことの提案が出せるもの日頃の提案活動の成果ではないだろうか考える。

#### 【事業の説明】

次に「婚活サポーター事業」について別紙資料に基づき説明を受けた。

29年度からスタート。30年度のサポーター数11名、登録者数53名、お見合い組数5組。毎月の相談会を行っている。サポーター会議は2か月に1回行うことでそれぞれのサポーターがもつ情報のすり合わせを行う。その際に男女双方の希望が合致しそうな二人を探す。出会いの機会をつくるイベントを委託して行っている。バスツアーなども行って来た。登録の際に職業、趣味、家族構成などの項目に記載するとともに、相手に対する希望として容姿、学歴、年収、住まい、相手への要望などについての記載項目がある。

まだ結婚に至る実績はない。課題は女性の数が少ないこと、イベントでは男女の数に偏りが出てくる。

#### 【主な質疑】

質問) 男女の縁を結びつけるような団体は他にもあるのか

答弁) あると思う。

質問) サポーターに男性が多いように見えるがどうか。報酬についてはどうか。

答弁) 県が同じ事業をやっており、県と市と両方に登録している人と市の事業のみに登録している人がいるので、結果的にそう見えているのかもしれないが男女数は変わらないと思う。謝金はない、ボランティアです。

質問) 民間で行っている事業との連携はあるか

答弁) 民間では様々なイベントを行っているが、市との連携はやっていない。

質問) 相談に参加した人の感想はどのようなものか。

答弁) 相談者はサポーターと直接やりとりをするので、市は詳細を把握していない。  
個人情報の扱いもサポーターで適切にしてもらっている。

質問) 相談を望む人は市に言うのではなく、サポーターを選んで登録する形になっているのか。

答弁) そうです。市のチラシにはサポーターの紹介もされている。

質問) サポーターになれる人の資格はどのようなものか。

答弁) 元自治会長や民生委員の人など地域活動している人が多いように思う。市長が認めた人ということで、基本は誠意ある人ならどなたでもできる。サポーターについてのクレームはこれまでない。

質問) 事業の目標や成果についてはどのように考えているか。

答弁) 今のところ目標や、結婚に結び付いたような実績はない。もし結婚に結び付くような結果が得られるようならば、市役所玄関で市長より祝福してもらおうとは考えているが。

質問) 県の事業と市の事業の登録についての関係はあるか。

答弁) 特にない。

【所見】近年は結婚の晩婚化と共に結婚しないひとも増えており、家族の中の少子化とともに人口減少の要因の一つとなっている。様々な形での社会の変化がある。自治体でどのような取り組みができるのか興味のあるところだが、結果に至るまでには時間も要すると思われる。三田市では以前有志ボランティアグループによる取り組みもあったが、現在は見られなくなった。実績に結び付けることの困難さをうかがわせる。

天童市の登録書の中で相手に希望する項目として容姿、学歴、年収、趣味など色々あるが多すぎるように感じた。それら全ての条件を合わせることは難しく、かつまた条件があっても出会ってみれば話が合わないことが往々にしてあるように思う。出会う前に相手への条件にこだわり過ぎることにならないかと思う。一方で現在のネット社会において、ネット上での結びつきによって恋愛や結婚に至るケースもあり、男女の選択の難しさを感じる。

もし三田市で取り組むとする場合でも結果をすぐに求めることは困難と思われる。また個人情報の扱いも課題となる。どのような形で市が「男女の出会いの支援」を行うことができるのか研究が必要と思う。